

ウイルス不活化試験結果（ヒカリアクターV3）

【試料】

ガラス板（市販のすりガラス）にヒカリアクターV3を塗付量が約 20g/m²になるようにスプレーした。対照試料は未塗布のガラス板を使用した。

【試験ウイルス】

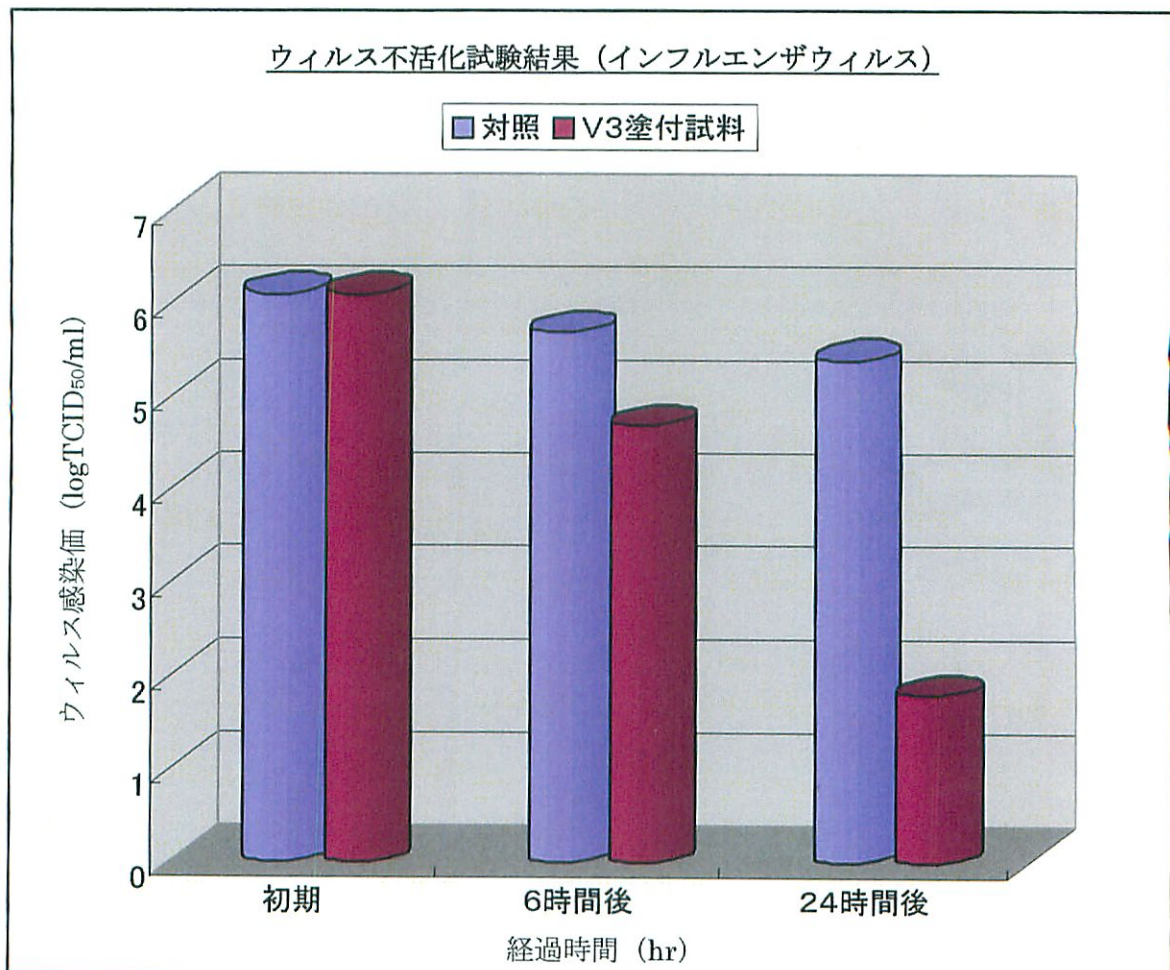
インフルエンザウイルス

【試験条件】

試料にウイルス浮遊液を滴下し、ブラックライトでUVを照射（UV強度 0.01mW/cm²）しながら室温で保存し、6時間後と24時間後にウイルス浮遊液を洗い出してウイルス不活化の指標となるウイルス感染価を測定した。試験は(財)日本食品分析センターにて実施した。

【結果】

結果は下記グラフの通りである。6時間後の測定でV3塗布試料のウイルス感染価が下がってきており24時間後には十分なウイルス不活化効果が確認できるようになっている。



試験機関：(財)日本食品分析センター

V3-0903